

アンケート結果の主な概要について

「賀露のまちづくりアンケート」は、平成24年6月に実施したものである。回答率は、1,168件で、全体の80%にもものぼり、住民の高い関心が示された。

1 世帯構成等について

- ① 同居家族数1人～2人が41%を占めており、核家族化が進展している。また、65歳以上の方が24%を占めていることから、単身又は2人世帯の多くを、高齢者だけで構成する世帯が多いことが想定される。
- ② 給与所得者が圧倒的な割合を占めている一方、漁業、農業者の割合が少ないことから、漁業の町というイメージとの乖離がみられる。

2 住環境について

- ① 住みやすい、まあ住みやすいとの回答が80%を超えており、住環境への評価が高い。
- ② 評価の高い要素としては、自然環境、生活環境があげられた。
- ③ 反対に住みにくい要素としては、悪臭問題があげられており、第一優先課題と言える。
- ④ 続いて、買い物などの生活上の不便があげられており、大型スーパーが近隣にあるものの、高齢化による買い物難民化が進み不便を感じていることが伺える。

3 目指すべき「まちづくり」について

- ① 生活環境と自然環境のさらなる整備のほか、福祉や災害に強い街づくりが求められている。
- ② 高齢化に伴い、災害時の要援護者に対する支援体制の充実を求める意見が多い。
- ③ 交通安全や防犯対策を求める声も多く、安心安全に暮らせるまちづくりが求められている。

4 その他の意見

- ・あいさつが出来るまちづくり
- ・将来に向かって各区の区割りの見直しを考える

- 地域とのつながりが希薄になりつつあるので、住民が参加しやすい地域づくりを考える
- 世代間交流が出来る啓発事業を考える
- 若者、子どもが地域に溶け込め、将来も賀露に住み続けたいと思えるような取組みを考える等

5 全体として

賀露地区は、奈良時代に吉備真備公を祀る賀露神社が 1653 年（承応 2）、鳥取藩初代藩主の池田光仲が御船手番所（川口番所）を設置した賀露港を背景に形成された歴史ある地域であり、昭和 50 年には鳥取港が重要港湾に指定されるなど、海とのつながりが欠かせない地域です。古くから漁業にまつわる関係者が多く居住してきましたが、近年では給与所得により生計を立てる人の割合が多くなりました。また、港湾をはじめとして大型ショッピングセンターや幹線道路も整備されるなど目覚ましい発展を遂げているところですが、それにより生活様式や高齢化、少子化などにより世帯の構成も大きく変化しており、未来に向けて、新たな街づくりが求められているところです。

《目指すべきまちづくりのキーワード》

- ◆安全安心（防災・防犯）
- ◆地域福祉（助け合いのコミュニティ）
- ◆環境（自然環境・生活環境）
- ◆教育・文化（生涯学習・伝承保存）
- ◆ふれあい・活力のあるまち（世代間交流）